

残そう、自然の宝石箱・のりくら

くらがね通信

No.70 (紅葉号)

乗鞍岳と飛驒の自然を考える会

2017 年 10 月 15 日発行

<http://iidalaw.net/norikura.html>

春の石仏巡り

住 壽美子

今回の石仏巡りは高山市漆垣内町のトマト選果場を始発点として、七夕岩～国道 158 号線～まこも坂～ひょうたん池～大洞～漆垣内二宮神社～始発点というコースを歩きました。このコースで見られる石仏の多くは、道路事情の変化や農地整理などで移転を余儀なくされて元の位置をとどめていません。そういった石仏の一つに、七夕岩の女岩の麓に安置されている馬頭観音像があります。元々は七夕岩から松の木の自動車学校までの間の、字火打ち岩というところにありました。かつてこの辺りは谷川付近の足場が悪く通行に困難を極めたため、丹生川村大萱の横山六兵衛さんという方が発起人となって、石橋を掛け直す等の道の修復が行われました。道普請に際しては丹生川村や松ノ木村等から沢山の人足やお金が寄せられたようです。この石仏はその記念として文政元年（1818）に六兵衛さんによって安置されたもので、以下のように文字が刻まれています。

「奉供養馬頭観音 文政元年戊寅歳

街道成就諸難離苦 八月吉日」

道の修復後ここにはイチイの木を植えて木陰を作り、道行く人々の休憩の場としての役割も果たしてきました。時が移り車社会となりました。国道 158 号線の歩広めによってイチイの木もなくなり、人々は馬頭観音の存在すら気づかずに行き過ぎるようになりましたが、六兵衛さんの馬頭観音はつい最近まで道の傍らで排気ガスと埃にまみれて、人々の往来を見守り続けてみえました。その位置はたしか平野木工所の付近であったと記憶しています。

昔悪路で通行に難儀を極めた場所も、今はきれいに舗装され快適に車を走らすことができます。しかし鍋山日陰と言われるこの辺りは、冬になると凍てついて車での往来には注意が必要です。かつて馬頭観音のあった場所は、いまでも注意が必要な場所なのです。



移設された馬頭様

平湯街道と共に、今から 60 余年前

ふるはし かつみ

6 月 25 日（日）曇り、「古人が歩いた、旧平湯街道を石仏をみながら」（住壽美子講師）に参加した。私は 1945 年（昭和 20 年）2 月 16 日、太平洋戦争、硫黄島が総攻撃された日、戦時中生まれたが、

戦争の事は知らない。当年にとって72歳、子供達からは金正日と同じ誕生日とからかわれるが、高倉健さんと同じ誕生日なのだ。今から60余年前、まだ小学生だった頃を思い出した。この平湯街道沿いの大洞に、お袋の実家があり、よく歩いた道だった。

七夕岩。昔は花火大会があり、橋の上から花火を見る。すごい人ごみの中で、ドカーンと上がる花火。迫力があり、すごくきれいだった事を思い出す。鍋山日陰にあった観音さま（覚えていなかったのだが、馬頭観音だった。今は七夕岩の近くに安置してある。）神明町の家から歩いてここまで来ると、必ずここで休んでから大洞に向かった。

冬は”大きいそり”に荷物を乗せたり、自分も乗せてもらったりして、その”そり”を引いて歩いた事も思い出す。街道の下り坂を”そり”で滑ったかもしれない。お袋に聞いた話では、親父と夫婦げんかをして、弟と私を連れて家を飛び出し、歩いて鍋山日陰の観音さままで来て、観音さまにさとしてもらったかどうかは不明だが、思い直して、そこから家に帰ったとの事。思い出深い観音さまだ。覚えていないが、かならず手を合わせたのだろう。大洞や丹生川の人達も、皆んな観音さまの所で休んで、手を合わせて行かれたのだろう。また、観音さまを松ノ木保存会の人達が保存していて下さって感謝、感激。

”まこも坂”を私は知らなかったのだが、”まこも”という地名は懐かしい。私の感覚では大洞の山側の少し西側を”まこも”と言っていて、そこにはお袋の実家の畑があり、小さいため池があり、そこでチョウ、トンボ等を捕まえたり、バッタは獲って煎って食料にしていた。大洞にも同じ年代の子供が沢山いたので、その子達と”まこも”も含め大洞中を遊び廻っていた。大洞に二つあるため池で泳いだ事、そこでイカダを作って遊んだ事。カエルを獲ってジバチを追いかけた事。

大洞の実家で、じいちゃんに「カツ、今晚はお前がいるからご馳走だ。にわたりの鍋だ。一羽持ってきてつぶせ。」と言われ、なんとかつぶした。その夜、「カツ、にわとりおいしいやろ」と。食べられなかった。また、その当時は”たまり”を採るためにみそ玉を作って、いろりの上にぶら下げてあった。二階に上がり、ぶら下げてあったみそ玉を引き上げて食べた時のうまかった事。後で大目玉だったが。まだまだ色々あるが・・・、まさに私の60余年前を思い出させてくれた平湯街道だった。住さん、また、案内した下さった方々、ありがとうございました。

黒の実線が今回歩いた所



大八賀村を歩いて

尾崎裕子

出発地のトマト選果場から、旧大八中学校あたりは開けて日あたりも良く、今では考えられないがその昔は藪に覆われて昼でもこさびしく、鍋山城の奥方の亡霊が出て「さんぼけ」と称されたところであったという。漆垣内は雪解けも早く、明るいイメージがあり想像ができない。橋を渡り七夕岩に向かっているとキジバトが菜花の種をついばんでいる。

七夕岩の女岩男岩には十数年前に登ったが、太古



夫婦岩はつながっていたのが大八賀川によって分離されたというその悠久の時の流れ。女岩の麓には荒神様や三十三観音などがあり、これらは元々この場所にあったのではなく、ここに集められたそうで趣きのある空間となっている。

158号を丹生川方面に向かうとキイチゴが熟しており、これは歩かないと気がつかない。車がひっきりなしに走っているのに、反対側の斜面にカモシカが下りてきて私達をじっと見つめて動かない。車田にはジョウビタキがいた。ひょうたん池は干上がっているという報道があったが、水を引いてありヒメコウホネは水没していた。鯉やザリガニもいて、干上がっていた時は水たまりほどしかなかったというが、その時彼らはどこにいたんだろう。カワセミの巣もあった。ヒツジグサは咲く時にポツとかすかな音がするという。その音を聞いてみたいのが長年の夢である。

観音堂から158号へ出る道は初めて歩いた。158号沿いに巡拝塔も五体まとめてあったが、この道を月に幾度となく通るのに全く存在を知らなかった。これから通るときにはチラ見をするだろう。二之宮神社は一之宮神社に次ぐ神社であるという。そのような神社があることも知らなかった。八百比丘尼が神像を刻んだという樺の見事な大木があった。

里山こみちには家庭の事情で2時間だけの参加だったり、去年は半日で帰り、一日参加したのは今年が初めてになる。漆垣内からひょうたん池、大洞から二之宮神社へと一周するコースだった。20代の頃、道祖神を訪ねて信州を旅したが、身近にこんなに沢山石仏があるなんて知らなかった。亡霊供養碑も面白かった。自分の足元を見つめたくて、帰ってから大八賀村史をひも解いてしまったほど。久しぶりに桑の実を食べたが相変わらずおいしい。五粒程だけだがやっぱり指が紫に染まってしまう。ウグイスカグラの実も一粒頂いた。車にでもひかれたかべったんこになったヤマカガシ、ヒメネズミ？のミイラも見つけた。ホタルブクロはホタルを入れる虫かごにしたのでその名がついたというが、蜂を入れて人に渡したという悪ガキだった頃の話、地名のいわれなどの話も聞けて、興味深く、ゆっくりのんびりと時の流れた一日だった。



アサギマダラマーキング会に参加して

中学3年 住 文乃

私は、小学校2年生の頃からアサギマダラのマーキング会に参加させて頂いています。今回は天気が良く、アサギマダラが好むヒヨドリ花の状態も良い、絶好のマーキング会日和でしたが、春に雨天の日が多かったことなどが原因らしく個体数の少なかったのが残念でした。それでも、全体では28頭ほど捕獲・マーキングすることが出来ました。

私は毎年この会に参加することをきっかけに家族でマーキングの為にチャオまで2,3回ほど行



きます。これまでに私のマーキングしたアサギマダラは三重県、鹿児島県の喜界島、山口県、京都で再捕獲されたことがあります。そのことが分かったときはとても嬉しかったし、アサギマダラが海も越えて渡りをするチョウだということを実感できました。また、長野県の川山村でマーキングされた個体の再捕獲をしたこともあります。そうしたことから私はどんどんアサギマダラにはまっていきました。

マーキング会に参加するとアサギマダラのことだけでなく、その他のチョウや植物の事、野鳥の生態などのことについても色々な話が聞けて面白い

し勉強になります。学校などでは習わない知識も得られるし、実物を見ながら話を聞くことが出来るのでわかりやすく、印象にも残ります。例えば、コムラサキの色は見るなら正面からがきれいとか、タテハチョウの足は前二本が退化しているとか、植物の種類や鳥の渡りの話です。これは何人もの人と一緒にいくからできる楽しみだと思います。また、自然の中にいるからこそ出来る貴重な体験も出来て楽しいです。今年は数少ないアサギマダラを求め、いつもならあきらめている状況の中、急斜面の上の方に止まった貴重な個体を目指し道なき道をかけずり回りました。

こうやって、アサギマダラマーキング会に参加することで新たな経験をし、再捕獲したり、してもらったりして知らない人とつながりができる事が楽しいのでしょうか。自分がマーキングしたあの個体が再捕獲されたと言うことが分かったときに、地図でどれだけの距離を飛んでいったのかを確認すると、自然の不思議を肌で感じられます。また、毎回いろいろな方面の話を聞くことができるので自分の中の知識の輪が広がっていきます。知識の輪が広いと、物事をいろいろな面から見ることもできて新たな知識につながることもあり、その時はあまり意味も分からず聞いていても、何かの時に「こういうことだったのか!」と分かったりすることもあります。たくさんの人で何かを一緒にやると面白いですね。

いつも企画してくださりありがとうございます。また来年も参加させて頂こうと思っています、まだまだ今シーズンは終わっていませんが、今から楽しみです。

アサギマダラマーキング会 (8/27)

宝田延彦

8/20、今年初めてアサギマダラのマーキングに行き 15 頭にマークしてきた。今年の御嶽山麓は、日和田高原から県道沿いのヒヨドリバナの状態は良好なのだが、アサギマダラの姿が少なかったのが気になって帰ってきた。

8/24、マーキング会の下見を兼ねて再び行ってみたが、天候は悪くないのにアサギの姿がほとんど見当たらず、1 頭捕獲したのみで、同じく下見に来ていた鈴木さんにこの 1 頭を渡して帰路に着く。毎回マーキング会を指導していただく鈴木さんは、マーキング会当日にアサギが少ないと参加者に楽しんでもらえないからと、事前にアサギを捕獲・飼育して当日にみんなでマークして放蝶していた。だが今回は捕獲できたのが僕が捕獲した 1 頭のみだった。



そして迎えたマーキング会当日。天候も良く、アサギもたくさん出ると思われた。参加者 20 名がチャオ周辺の県道沿いや、スキー場内で大の大人が網を持って童心に返ったように、ヒラヒラと舞うアサギマダラを追って楽しんだ。だがアサギは思いのほか出てくれなくて 20 名で 29 頭にマークしたのみだった。

今年のアサギマダラの状態は、例年より 1 週間遅れて、9/5 以降によく出てくるようになり、台風が去った 9/19 には県道のヒヨドリバナの花期は過ぎていたが、スキー場内では近くの林から次から次へと出てきてくれた。例年ならこの頃になるとアサギの多くは渡りモードであり花に止まってくれない。この日以降は高く飛んで南へと渡っていくばかりだった。

9/29 現在では関西での標識・再捕獲情報に移ってきている。これから中国・四国・九州へでの情報が入ってくるのだろう。その中に、8/27 に私たちがマークしたのが入っているのを期待しよう。ちなみに、僕個人で再捕獲したのが 2 例あり、美ヶ原と乗鞍岳のエコーラインでマークされていたことがわかっている。

飛驒の峠【その 2】

木下喜代男

から尾峠（標高 1610m）—飛越国境の鎌倉街道・飛驒人が薬師岳、立山詣でに越えた峠

昔の人が国境の峠を越えるということは、現代なら外国へ行くようなものであったろう。村の結界から異界へ踏み入れる不安と期待の入り混じった気持ちで峠に立ち、地藏様に道中の無事を祈った。そんな時代のことを思いながらの峠歩きはまことに楽しい。

このから尾峠（国土地理院の地形図には唐尾とあるが、から尾が正しい）も飛越国境にある。平成 24 年 7 月に歩いたが、今年の 5 月 14 日にも 3 名を案内して登った。ご存知のとおり鎌倉街道とは、鎌倉時代に「いざ鎌倉」と言う時全国の御家人たちが一斉に鎌倉を目指して進軍した道で、今でも各地に残っている。飛驒を通過する鎌倉街道は、有峰からこのから尾峠を越えて山之村に入り、山吹峠を越えて双六谷から高原川に下る。（双六川沿いに、近年高山市が建てた「鎌倉街道」の石柱がある。）そして高原川を遡り、枳尾で一重ヶ根へ渡る。禅通寺裏から平湯を経て安房峠（今の国道の峠より北側・別名大峠、信濃峠）を越え、信州へ入るのが飛驒のルート。中尾峠から焼岳の裾を通過して安房峠へ合流する道は脇道らしい。

鎌倉時代の守護・地頭配置図を見ると、越中には守護はいなく、地頭の五十嵐氏がいたようだ。全国的には中世から近世のはじめころまで使われたが、飛驒の街道はその後に使われ、江戸期には富山藩の人が江戸の往復に通り、飛驒からは薬師岳、立山詣でなどの人が通った。和佐府集落から有峰集落への嫁入りにも使われたという。

山之村和佐府集落最奥の林道入口には、峠名を印した立派な石碑（写真 1）が建っている。ここから林道を約 2.5km 歩くが、以前より崩壊が目立った。林道終点あたりの谷の手前から左の山道へ入る。昔はここまでは谷沿いの道だったと思われる。

山道を少し登り、小さい谷を渡ってブナ林の尾根

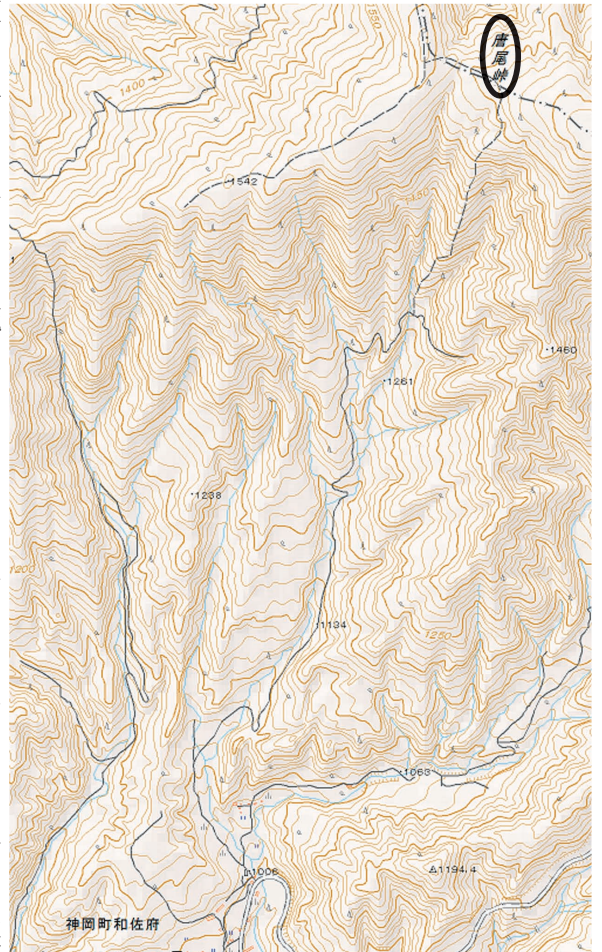




写真 1

に取り付くが、よく踏まれたはっきりした道で歩きやすい。やがて鎌倉街道の特徴といわれる薬研堀（写真 2・やげんぼり一尾根が人の手で掘られて切通しになっている）が現れ、背後には山之村のシンボル天蓋山が見えだす。

標高約 1500m の岩の下にいいお顔の地藏様が鎮座しておられる。（写真 3）これは北飛驒を支配していた江間家の重臣川上忠左衛門の子息 2 名が冬にこの地点で遭難し、彼らの姉が慰霊のために 2 体を安置したという。その後古道復旧整備の時埋もれていた 1 体が発見されたが、もう 1 体がまだ見つからないとも。（なおこの地藏像には別の言い伝えもある。）

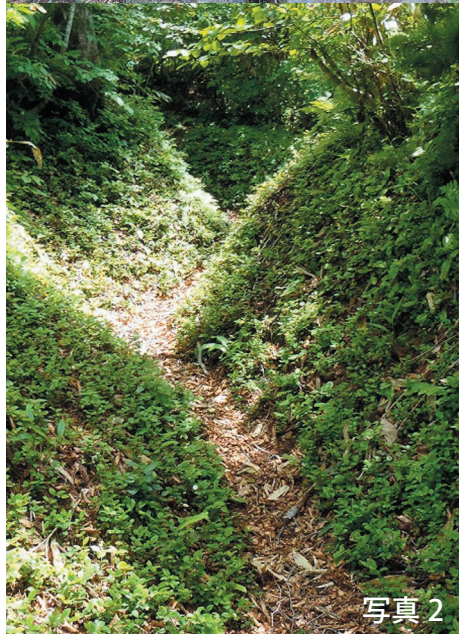


写真 2

この少し上あたりから残雪が現れ、峠のある広い尾根はまだ雪に覆われていた。峠といっても最低鞍部（タワ）でなく、広い尾根の途中にあり、他の峠とは趣がちがう。熊にかじられた標識（写真 4）が傾いていたので皆で起こす。

ここから雪の上を有峰側へ移動すると、剣岳や立山、薬師岳が大きく見えた。以前来たときその先は道がはっきり残っていたものの藪がひどく、あきらめて引き返した。今回も途中までとする。

峠からの越中側ルートは、大多和峠への尾根でなく北東の尾根を下り、西谷へ出て有峰集落（現在は有峰湖）へ下る。有峰から今度は北西に針路をとり、東笠山の裾を通して真っ直ぐ常願寺川へ出るのである。地図のない時代に昔の人が拓いた無理がない、合理的なルートにいつも感心させられる。



写真 3

峠まで引き返し、広い国境尾根通しに最低鞍部の有峰湖が俯瞰できる場所まで移動。（写真 5）湖の上に剣岳や立山が見えた。この広がりには冬にスキーで歩くとすばらしいところだ。5 年前に来たときまでは、この峠道を守るため毎年地元の人が笹を刈っておられたのだが、その後集落の過疎化高齢化で手入れができていないのと。特に笹が多い稜線あたりは雪に覆われていてわからなかったが、だいぶ笹が茂っていると思われる。今回我々は下の方の笹を少し刈り、倒木を除去するなどしてきたが、やがて歴史があるこの峠道も笹に埋もれてしまうのであろう。約 1 ヶ月前の 4 月 20 日、この峠の峰続きにあるゼッコヘ山スキーに来た時まだ雪に埋もれていた集落は、ほとんど雪が消えて遅い春を迎え、山桜が満開だった。



写真 4

帰路大規模林道上の山吹峠にさしかかり、左に桑崎山を見ながらいつも思うのは、天正 12 年に富山城主佐々成政が越えたのはザラ峠でなく、この鎌倉街道からの安房峠ではなかったかということだ。厳冬期にザラ峠を越え、黒部川を渡って針ノ木峠を越えることは容易でなく、このルートなら途中に有峰や山之村の集落があり、標高も低いので冬でもさほど困難ではない。そして昔は安房峠をザラ峠と呼んでいたと、なにかの本で読んだことがある。佐々成政が埋めたという金塊は、富山の鍬崎山でなく、山之村の桑崎山にあるのかもしれない。



写真 5

水生昆虫調査の報告

松崎茂

水質検査は採水した時の値を示すだけであるのに反し、水生昆虫などの水生生物の調査は、過去数週間以上の河川水質や河川環境の状態を反映する事から、河川汚濁の長期的な傾向を知ることができます。一般的に清潔な河川では水生昆虫等の種類は多種多様で、反対に汚濁の進んでいる所では種類数は少なくなる事が言えるため、この調査はカワゲラウォッチングなどと称して全国各地で子どもたちを対象によく行われています。

本会では昨年に引き続き7月23日(日)に水生昆虫の調査を行いました。調査地は昨年と同じ場所、川上川と宮川の2地点と追加で苔川でも行いました。

川の様子は昨年と大差なかったのですが結果(下記データ参照)は、昨年とは違います。捕獲した個体数は今年の方が明らかに少なくなっています。また個体数が少ないのと同時に懸念されるのが種類数の少なさです。水生昆虫の**種類数**は昨年も今年も明らかに**貧弱**なのです。宮川や川上川の**水質**はどの地点をとっても環境基準に適合しています。つまり**水質は問題ない**のにです。

私は下水道普及の前後の河川の様子を知るために、1970年代～90年代に継続して河川の水質や水生昆虫の調査を宮川や川上川で行ってきました。下水道普及以前は江名子川や苔川、或は宮川でも万人橋下流などでは川に入るのに嫌悪感を覚える程の汚濁状況だったのが、下水の普及に伴い河川の水質は著しく改善されてきました。市街地区域の宮川を除けば、水生昆虫の種類数や個体数も前回・今回の調査結果に比べれば明らかに豊かでした。当時は捕獲した水生昆虫の種を同定するのに大変だったのが、今では簡単に済んでしまいます。以前は、夏の蒸し暑い夜には八千代橋や四十九院橋、熊野橋などの照明の下では大量のカワゲラやトビケラの羽化が観察できましたが、今では皆無です。

当たり前のようにして見かけていたカワガラスを見かける事が最近めっきり減った、という声から始まった水生昆虫調査。水生昆虫は、魚やカワガラスが生きて行く糧としているものです。川を流れている水そのものはきれいなのに、その中で生きる多くの水生昆虫が居ない。この変な実態の原因は何なのでしょう・・・？河川環境がおかしな方向に変わっているのではと懸念しています。

参加者9名 天候：小雨



ヒゲナガカワトビケラ
(左) とハゼの仲間 (右)



2017 調査結果 (数字は捕獲数)

宮川 (苔川合流点上流)		川上川 (市民プール横)	
ヒゲナガカワトビケラ	27	ヒゲナガカワトビケラ	84
ウルマーシマトビケラ	6	ヒラタカゲロウ sp	26
ヒラタカゲロウ sp	6	カゲロウ sp(尾3本)	12
チラカゲロウ	1	カワゲラ sp	2
カゲロウ sp(尾3本)	9		
カワゲラ sp	2		
※ヒル	5		
※ガガンボ	1		
※ミズムシ	1		

※は中腐水生物

2018 調査結果 (数字は捕獲数)



エルモンヒラタカゲロウ (左)
とミズムシ (右)

宮川 (苔川合流点上流)	
ウルマーシマトビケラ	18
ムナグロナガレトビケラ	1
エルモンヒラタカゲロウ	6
タニガワカゲロウ sp	3
※ヒル	1
※ミズムシ	5
川上川 (市民プール横)	
ヒゲナガカワトビケラ	28
ウルマーシマトビケラ	18
ムナグロナガレトビケラ	1
タニガワカゲロウ	3
エルモンヒラタカゲロウ	2

■ 会員を募集しています！ 年会費＝個人 2,000 円 家族 3,000 円 団体 5,000 円
あなたの知人、友人に入会をおすすめください
・郵便振替 00800-8-129365 振込先 乗鞍岳の自然を考える会

くらがね通信 第 70 号 (紅葉号) 2017 年 10 月 15 日 発行

発行者 乗鞍岳と飛騨の自然を考える会 〒506-0055 岐阜県高山市上岡本町 4-218-3 飯田 洋

TEL: 0577-32-7206・FAX: 0577-32-7207

下記 URL のページからくらがね通信のバックナンバーが閲覧できます。

★ <http://iidalaw.net/norikura.html>

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

■ 編集責任者: 松崎 茂

E-mail: ponykun0428@hidatakayama.ne.jp TEL: 0577-34-4703

表紙写真提供: 小池 潜

印刷: 山都印刷